

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 工原 No.7-2【総合原価計算の仕損・減損】

収録日：平成 25 年 8 月 13 日

【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 129 回

全経簿記上級過去問 161,164,165,167 回（全経では定番の問題）

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	7	53	40	
平均的発生	△	◎	◎	
正常と異常	×	◎	◎	
度外視法	△	◎	◎	
非度外視法	△	◎	◎	
安定的発生	×	◎	◎	
評価額の控除	×	◎	◎	
	×			

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

●他の箇所では説明又は例題あり

まずは、2級の問題を解いてみて下さい（工程別総合原価計算＜累加法＞）10分

第一工程：先入先出法、第二工程：平均法 材料は始点投入

（生産データ）

	第一工程	第二工程
月初仕掛品	1,000kg (20%)	2,000kg (30%) 3,360
当月投入	19,000kg	18,000kg
合計	20,000kg	20,000kg
月末仕掛品	2,000kg (50%)	1,000kg (80%)
完成品	18,000kg	19,000kg

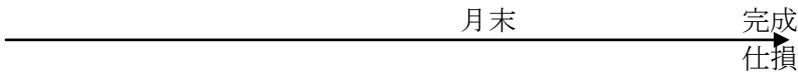
（原価データ）原料費と（）内は加工費

	第一工程	第二工程
月初仕掛品	21,000 (3,360)	75,680 (12,000)
当月投入	475,000 (248,160)	? (384,000)
合計		

数量按分と換算量按分の違いを考えてみよう

度外視法と非度外視法

タイムテーブルは書こう



簡単な例でいきましょう。数量（内側）・金額（外側）は書いておきました

完成品負担（先入先出法） 月初 50%、減損 100%、月末 75%

<度外視法>

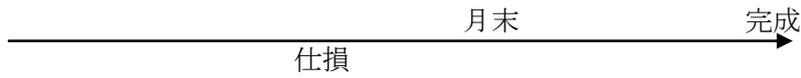
1,000	10	10	1,000	5	5
9,000	90	60	9,000	90	65
		10			10
		20			15

<非度外視法> 減損費は材料・加工から抜き出して新しいBOXをつくって、それから完成品の原価に追加配賦（要は加算）する。（仕損費を明確に分離するので評価ある場合は評価額もBOX内で引く）

1,000	10	10	1,000	5	5
9,000	90	60	9,000	90	65
		10			10
		20			15

仕損品費 BOX

--	--



両者負担（先入先出法）

<度外視法> 月初 50%、減損 50%、月末 75%

1,000	10	10		1,000	5	5
9,000	90	60		8,500	85	65
		10				5
		20				15

<非度外視法> 減損費は材料・加工から抜き出して新しいBOXをつくって、それから数量で按分（換算量で按分ではない）

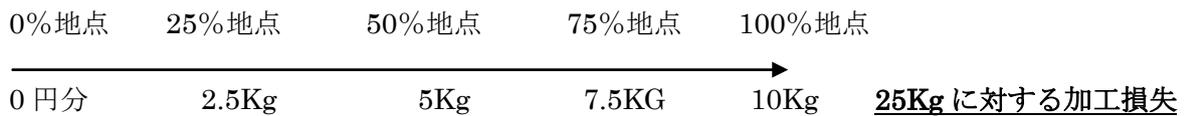
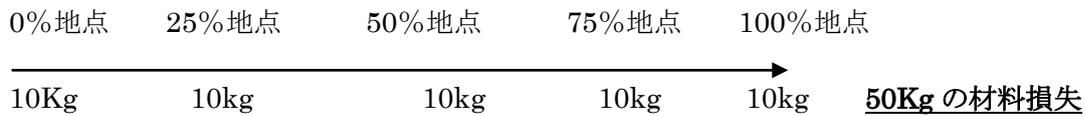
1,000	10	10		1,000	5	5
9,000	90	60		8,500	85	65
		10				5
		20				15

	完成品
	月末

完成品負担は度外視法と非度外視法で結果は同じだったが、両者負担は違った。なぜだろう？

平均的発生について（これはダウンロード講座で説明します）

材料費の損失を考えよう



試験問題で、「減損は平均的に発生」とあったら減損にかかった原価は「50%までにかかった加工賃」と考えて計算します（加工換算量は50%と考えて計算します）

ただし、平均的に発生しているので、常に両者負担で計算する必要があります。

（月末仕掛品が40%地点であっても、両者負担と考えて計算しなければなりません）

度外視法では、50%計算しても減損の計算は×にするので、意味はない

非度外視法では、50%計算した金額を仕損費として把握して、換算量で按分する